Ⅲ　歴史・伝統文化

ここでは，福山市に残る「伝統的なお祭り」「町並みやくらしの移り変わり」などについて学びます。伝統を受け継いでいる人々の願いを聞き取ったり，くらしの様子がどう変化しているかなどを調べたりしてみましょう。

1　むかしを伝えるもの

（1）まつりや行事

昔から福山の主な行事は，新春に行われる「とんど」と，お盆の「二上り」でした。今では，5月のばら祭と，夏に行われる福山夏まつりが主なものとなり，二上りはその中で踊られます。また，秋には，町内会や子ども会ごとに，秋祭りも行われます。みこしが出るなどして，にぎやかに行われます。このほかにも，市内各地には子どもたちの楽しみとして，「いのこ」など季節ごとにいくつかの行事を行っているところがあります。「はねおどり」や「神楽」などは，その年の豊作を祝って踊られます。

〔とんど〕

〔二上り〕

〔はねおどり〕

〔神楽〕

ア　とんど

「とんど」は平安時代に御所で行われていた正月の行事の一つで，「左儀長」とよばれた行事が始まりと言われています。

それがだんだん人々の間に広まり，福山城に初めての城主がやってきたとき，それを祝って町の人々がとんどを飾りつけ，かつぎ回ったことが「練り歩く形のとんど」の始まりだと言われています。

〔「とんど」（『福山左儀長絵巻』（部分）　福山城博物館蔵）〕

その後，「とんど」は地域の人々が集まって，正月飾りを焼くことで，１年間病気や事故がなく，元気に過ごせることを願って行われるようになりました。

しばらくの間「とんど」が行われなかった時期もありましたが，最近では，１月１５日または，その前後の休日に，商店街や地域の子ども会を中心にして，福山市内の多くの学区で行われるようになりました。

〔能登原とんど〕

沼隈町能登原に伝えられている，「能登原とんど」は福山市の無形民俗文化財に指定されています。

とんどを受け継いできた人たちは，どんなことを願いながら受け継いできたのか考えてみよう！

イ　二上りおどり

毎年８月１３日～１５日の３日間，福山市内では中心部商店街や中央公園などで，福山夏まつりが開催されます。そこでは，「二上りおどり」と呼ばれる踊りがたくさんの人々によって踊られます。

この「二上りおどり」は，盆踊りの一種と考えられる踊りです。

江戸時代には三味線の「二上り」のメロディーをもとに，尺八などの楽器に合わせ，頭に折笠・頬かむりをし，手に団扇を持ち踊っていました。

今では，団扇に代えて竹でできた打楽器「四ツ竹」を使い，頭にかぶるものも，はちまきや手ぬぐいに変わり，楽器には鉦・太鼓を加えて，踊りの曲も速いテンポになっています。

〔福山夏まつりで踊られる「二上りおどり」〕

ふるさと豆知識

二種類の二上り

「二上り」には，福山城下に伝わるものと，江戸時代の宿場町であった神辺に伝わっていたとされる二つの踊りがあります。

福山城下に伝わるものは「広島県無形民俗文化財」に指定され，神辺に伝わっていたとされるものは「福山市無形民俗文化財」に指定されています。

ウ　はねおどり

「はねおどり」は，古くから備後南部一帯で踊られたもので，もとは農村行事「虫送り」「雨乞い」であったと考えられています。その名のとおり楽器を打ち鳴らしながら大地を踏みしめたり，飛びはねたりして踊ります。踊りの起源は明らかではありませんが，少なくとも江戸時代以前から踊られていたと伝えられています。

〔神辺町 三日市の「はねおどり」〕

江戸時代，水野勝成が福山城主となり，この踊りを見て，勇ましく活気に満ちていることから，これを進め，各村々に鉦と鼓を配り，雨乞い・虫送り・祭りなどの行事に行なわせたと伝えられており，このころから盛んになったと言われています。

現在は沼隈・蔵王・田尻の「はねおどり」が広島県無形民俗文化財の指定を受け，今に至っています。

踊りの様式は，単衣の着物にたすきがけをし，手甲・脚半にわらじを履き，鬼や音頭取りの音頭に合わせ，鉦や太鼓を打ちならしておどります。

大胴と呼ぶ大太鼓は，左手に抱えこみ，大きく振りまわしながら打ちます。入鼓と呼ぶ小太鼓は，胸につけ，飛びはねるように打ちます。鉦は，左手に持ち，腰をかがめて打ちます。

〔山南の「はねおどり」〕

みなさんの住んでいる町にも，はねおどりのように昔から伝えられている踊りや行事があるかを調べて，９３ｐにまとめよう！

（2）昔の建物と町並み

福山市には，何百年も前に建てられたお寺や民家などが大切に残されていたり，昔の様子が分かるものが残されていたりしています。また，広島県立歴史博物館には，昔さかえた草戸千軒の町も復元されています。

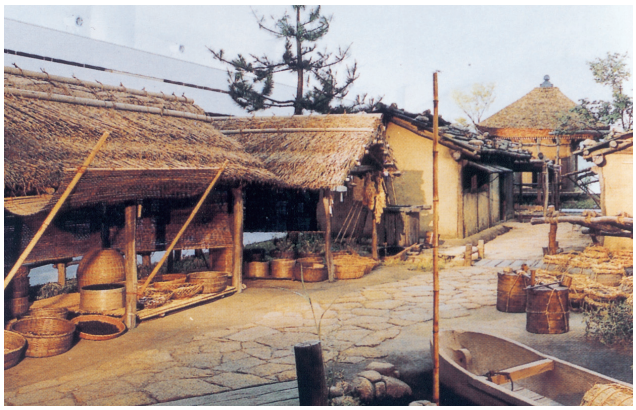
〔明王院本堂〕

〔鞆の古い町並み〕

〔明治２年の福山城〕

〔昭和の始めごろの藤江小学校〕

〔昭和１２年の大津野小学校新校舎落成式〕



〔再現された草戸千軒の町〕

ア　明王院と草戸千軒

（ア）明王院の歴史

明王院というお寺は，草戸町の芦田川に面した草戸山のふもとにあります。

今の明王院のもとになったお寺を常福寺といいます。お寺に残された文書によると，８０７年（大同２年）に空海（弘法大師）という人が建てたと言われていますが，よく分かっていません。しかし，そこにある仏像は今から１０００年以上前の平安時代のはじめに作られたもので，お寺もその頃建てられたのではないかと予想されています。

本堂と五重塔は国宝に指定されています。今の本堂は，１３２１年（元応３年）に再建された建物です。五重塔は，１３４８年（貞和４年）に建てられました。日本中の五重塔の中で５番目に古いものです。

〔明王院の五重塔〕

（イ）中世の港町「草戸千軒」

明王院のある草戸町に「草戸千軒」という町がありました。江戸時代に書かれた本の中に「草戸千軒」という町の名前が書かれていましたが，町の様子は書かれていなかったので，長い間，幻の町だと言われていました。

しかし，１９３０年（昭和５年）ごろの芦田川の工事によって，その当時の物が土の中から出てきました。こうして草戸千軒という町があったことが確かめられました。１９６１年（昭和３６年）から約３０年間にわたる調査が行われ，今から５００年～８００年ほど前の人々の生活が分かるものが多く発見されました。それらの発見された物から，草戸千軒は明王院の門前町として，また瀬戸内海に面した港町として栄えていたことが分かります。

〔再現された草戸千軒の町〕

現在，広島県立歴史博物館には草戸千軒の町の様子を再現した模型や出てきた物が展示されています。

イ　鞆の歴史ある町並み

潮の満ち引きによって瀬戸内海には，東と西からの潮の流れがあります。このため瀬戸内海のほぼ中央に位置する鞆には，東西からの流れに乗って，船が集まりました。それぞれの船は鞆で潮の流れが変わるのを待ち，出港していきました。そのため鞆は古くから，東西の船が集まる，「潮待ちの港」として栄えてきました。

〔鞆の古い町並み〕

鞆には，今から１０００年以上前の平安時代に建てられ，その後再建されたとされる，医王寺などのお寺や沼名前神社があり，古くから重要な港町だったことが分かります。

今から約４００年前の江戸時代には，港を中心に，商人の屋敷や蔵が建つ，町並みが築かれました。

また，朝鮮からの使者の宿泊地にも選ばれ，１７１１年（正徳元年）に福禅寺に宿泊した使者は，お寺から見た鞆の浦の景色を「日東第一形勝」（朝鮮より東の世界で一番景色の美しい場所の意味）とたたえました。今でも，鞆の町には，多くの古寺や江戸時代のようすを残した古い町並みが残り，福山の観光地としてにぎわっています。

〔鞆の海と常夜燈〕

〔福禅寺の対潮楼から見た景色〕

ここから見えるおだやかな海のようすをイメージした琴の名曲があるんだよ。

自分たちで調べた，地域に残っている，踊りや行事・古いものや建物などについてまとめてみよう！

	名前	わかったこと（いつごろ・どのようにして）
祭り・踊り・行事など		
古い建物など		

ふるさと豆知識

福山市ウォーキングマップ

「福山市ウォーキングマップ」というものを見つけたよ！なんのマップなんだろう？

ウォーキングマップは，小学校区ごとに，地域の自然や名所を楽しみながら歩くことができるコースを紹介した地図なんだよ。

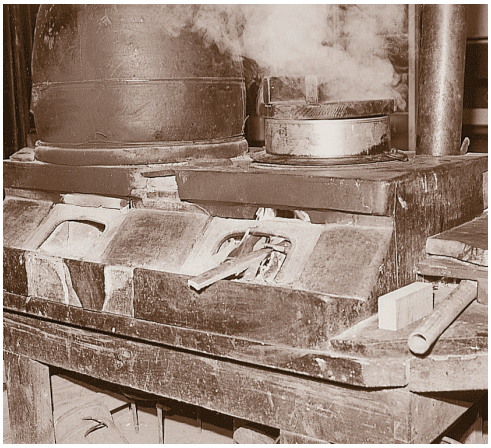
福山のみなさんの健康づくりのためのボランティアをしてくださっている，福山市運動普及推進員の人たちが作ってくれたんだよ。ぜひ，おうちの人と一緒に地域めぐりをしてみてね！

マップは，福山市のホームページの健康推進課のコーナーからダウンロードできるよ。

2　くらしのうつりかわり

（1）くらしの道具

わたしたちが，くらしの中で使っている道具は，昔と今では，ずいぶん変わってきました。



自分の家にも，古いものが残されていないか調べ，それが使われていたころのようすを家の人や近所のおじいさんやおばあさんに聞いてみよう！

（2）農家のようす

昔は，田畑をたがやすのに，くわや牛を使って，家ぞくみんなで農作業をしていました。今では，機械を多く使うようになり，ずいぶんようすが変わりました。

民俗資料館などの見学やおじいさんやおばあさんの話から，昔の農家のくらしのようすを調べてみよう！

（3）商店のようす

〔昔の店（雑貨店）〕

〔今の店（デパート）〕

昔は，店に働きに出ると，一人前になるまでは，住みこんで働く人が多く，自転車に品物をつんで，外へ売りに出ることもありました。そして，何年か働いて，「のれんわけ」をしてもらい，新しく店を開くことのできる人もいました。

昔の店は，かわら屋根で，一階だけの板の間や，たたみじきの売り場でしたが，売る品物の数が増えるにつれて，店も広くなりました。

今の店は，大きな建物になり，店内も明るくなりました。かぎられた品物だけ売るのではなく，多くのしゅるいの品物を売り，時には大売出しをして，たくさんの人々が買い物に来るようになりました。

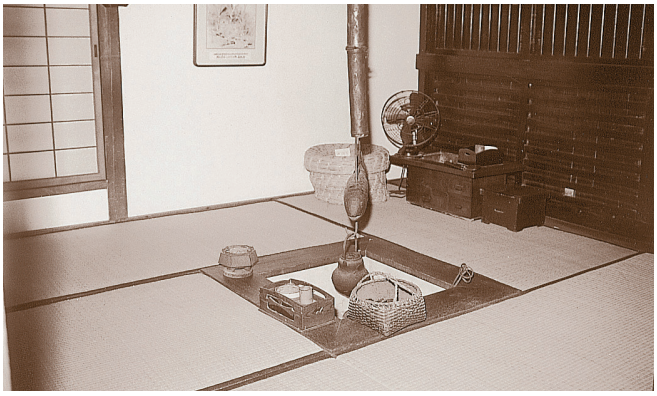
おじいさんやおばあさんに，子どものころのお店のようすや買い物のようすを聞いてみよう！

おじいさんやおばあさんから聞いたこと

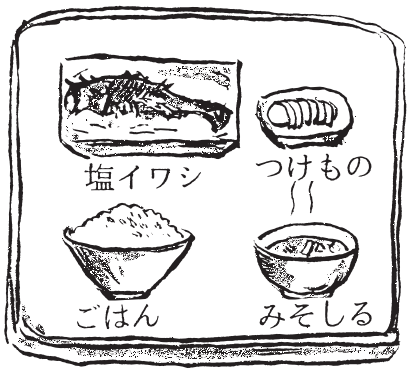
（4）食事のようす

〔昔の農家の一日の食事〕　※夜なかり（夜食のこと）

0 1 2 3 4	5	6 7 8	9	10 11 12 1	2	3 4 5 6	7	8 9 10	11	12
ね　る	朝茶	朝しごと	朝ご飯	昼しごと	昼ご飯	夕しごと	夕ご飯	夜なべしごと	夜なかり	ねる



〔いろりのあるへや〕



〔夕ご飯〕

〈家の人に聞く〉

おばあさんから，昔の食事について話を聞きました。「子どものころの食事は，今とちがって，食べる時間も回数もちがっていたよ。朝茶は，前の晩の残り物とお茶。朝ご飯は，ご飯にみそしるとつけもの。昼ご飯は，朝の残りご飯にみそとつけもの。夕ご飯は，昼とほとんど同じだったり，時々うどん・そば・だんごじる，たまに塩いわしなどを食べたりしたよ。昼ご飯は，田や畑のほとりで食べることもあり，おいしかったねえ。」となつかしそうに話してくれました。今は，食べるものも，ずいぶん変わってきました。

ふるさと豆知識　福山の郷土料理「鯛めん・ねぶとのからあげ・うずみ」

〔鯛めん〕

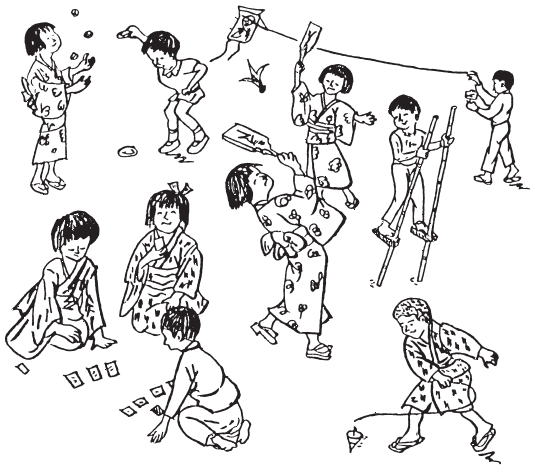
「鯛めん」の鯛は「めでたい」，そうめんは「細く長く」という意味を込めて，結婚式や新築のお祝いごとなどにはかかせない食べ物でした。

「ねぶとのから揚げ」は，体長３cmほどの瀬戸内海を代表する小魚のからあげです。「イシモチ」や「イシカベリ」などと呼ばれることもあります。

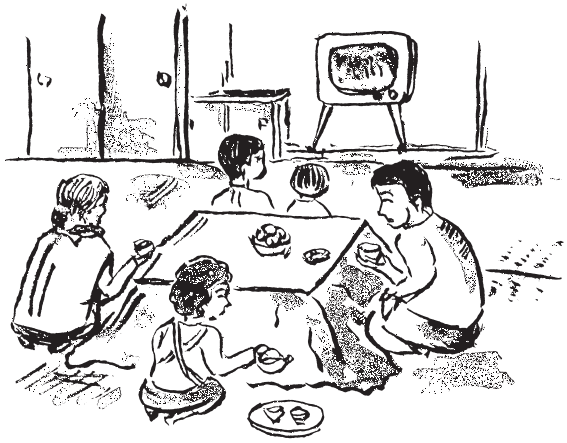
「うずみ」は「うずめる」の意味です。江戸時代，ぜいたくを禁止する決まりがあったため，人々が，鶏肉や，えび，まつたけや里芋などのごちそうをご飯の下に隠して食べたのが始まりとされています。

〔うずみ〕

〔ねぶと〕



〔昔の遊び〕



〔へやでのくつろぎ〕

（5）遊びのようす

おじいさんからは，昔の遊びについて話を聞きました。おじいさんは，にこにこ顔で，「今とちがうのは，たこや竹馬などを自分で作り，神社やお寺のけいだいで，みんな集まってよく遊んだもんだ。君たちのお父さんが子どものころは，野球がさかんになってたね。」と教えてくれました。

また，１９６０年（昭和３５年）ごろから，ラジオにかわって，テレビを見る家が多くなってきました。はじめのころは，テレビを早く買った近所の家に，何人も集まっては見させてもらっていましたが，１９６４年（昭和３９年）の東京オリンピックのころからカラー放送が始まると，テレビを持つ家が増えていきました。おじいさんやおばあさんの話のように，くらしはずいぶん変わってきました。

家の人に昔の食事や遊びについて聞いてみよう！

昔の食事	昔の遊び

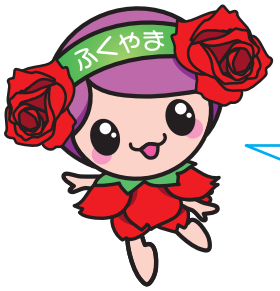
3　市のうつりかわり

（1）新しい土地を作る

現在の新涯町のあたりは，今から約１５０年前に，福山藩（藩は今の県にあたる）が，米のとれ高をふやそうとして海を干拓してつくられた土地です。

瀬戸内海に注ぐ，芦田川の河口に近い遠浅の海岸線に目をつけて，現在の川口町の南と北から，堤防をのばして，海の中に大きな“かこい”をつくっていきました。

南は箕島につなぎ，北は東から南に堤防をまわし，これも箕島につなぎました。そして，“かこい”の中の海水をほして，新しい土地をつくりました。その広さは３２０ヘクタールありました。

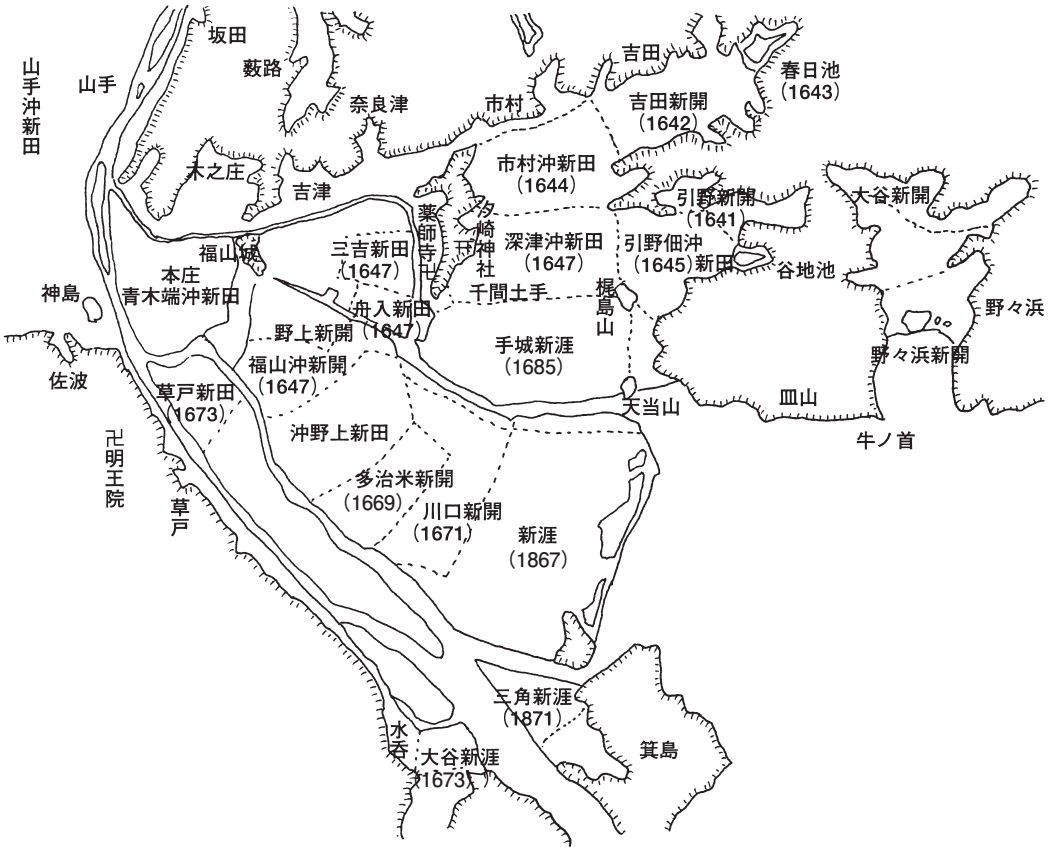


３２０ヘクタールって，学校の運動場の広さの何倍くらいなのか，計算してみよう！

この干拓工事は，毎日約６００人の人たちが，約１６０そうの石船や砂船を使って，３年もかかってようやく堤防を築いたそうです。

１８６７年（慶応３年）６月２６日の大潮の日の海の水がもっとも引いた干潮の午後１時，大ぜいの見物人が見守る中で，およそ２５００人の人たちによって最後の堤防がしめ切られました。（汐留）

このようにしてできた新しいかんたく地を“大新涯”と呼び，現在の町名は，新涯町・曙町・一文字町・卸町・新浜町などとなっています。



〔福山藩による干拓〕

（2）福山空しゅうのころ

〔空しゅうの次の日の町のようす〕

〔現在の町のようす〕

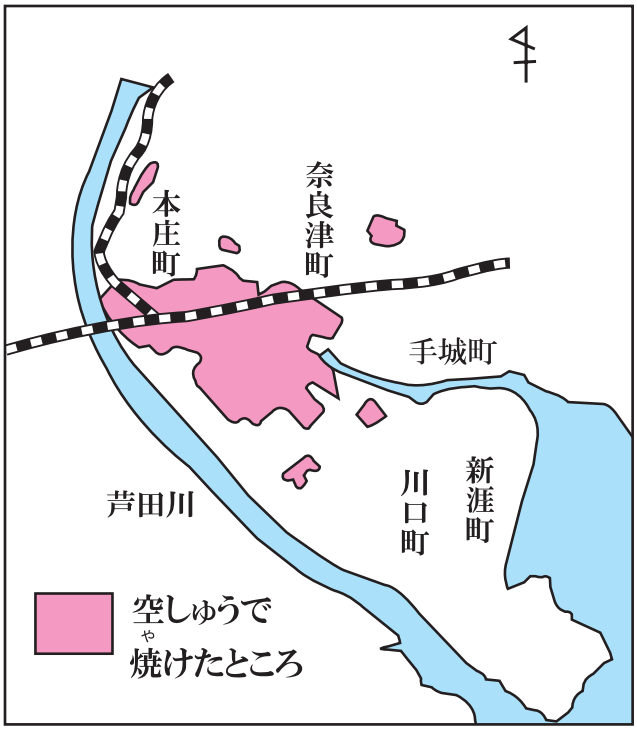
〔焼けおちた福山駅〕

〔現在の福山駅〕

１９４５年（昭和２０年）８月８日午後１０時２５分ごろ，アメリカのＢ２９ばくげき機が，福山の上空に来て，城を目じるしに，約１時間にわたって，焼夷弾（ばくだんの一種で，建物やじん地を焼きはらうために使われた。）を落としました。

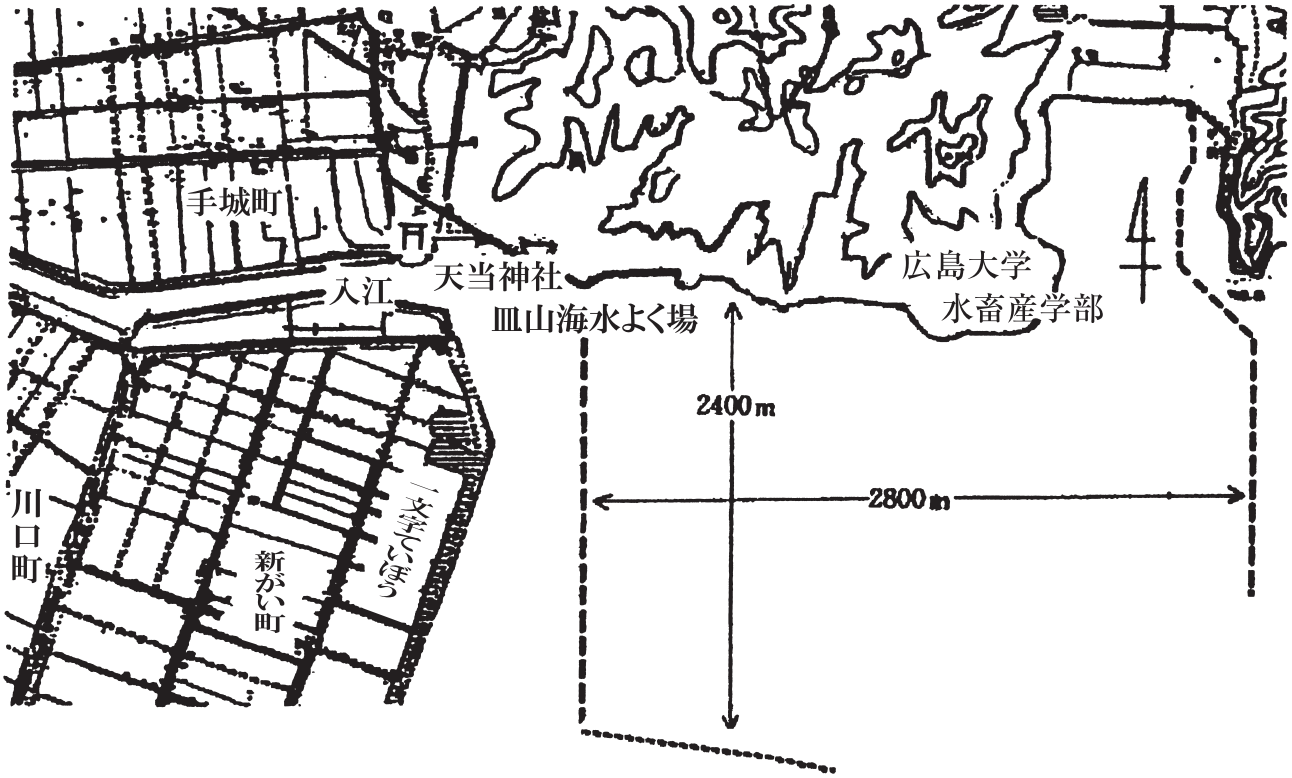
そのため，市の中心部のほとんどが焼けてしまい，３５４人の人がなくなり，大ぜいの人がけがをしました。

また，学校も焼けてしまい，となりの町の学校まで行って勉強を続けました。人々の生活は，とても苦しくなりましたが，みんなで力を合わせて，福山の町のたてなおしをしました。



〔空しゅうで焼けた市の中心部〕

（3）製鉄所ができて



〔製鉄所ができる前の引野（皿山）沖〕

〔うめたてによってできた工場用地〕

１９６２年（昭和３７年）から引野（皿山）沖をうめたてて工場用地をつくり始めました。２年あまりかけて，高炉などいろいろな設備がある大きな製鉄所ができました。

工場で働く人たちのために，市の東部（伊勢丘・旭丘など）には，住宅団地が開発されました。

自分たちの住んでいる町が，昔と比べて，何が，どのように変わってきたのか調べてみよう！

（4）明日の福山をめざして

福山市では，２１世紀のまちづくりとして，様々な計画が進められています。この計画では，市民一人ひとりの人権を大切にして，人にやさしい町づくりをめざしています。

地域の人がくらしやすくするための施設

〔東部市民センター〕

健康なくらしを守るための施設

〔すこやかセンター〕

文化・芸術・スポーツ・レクリエーションなどを楽しむための施設

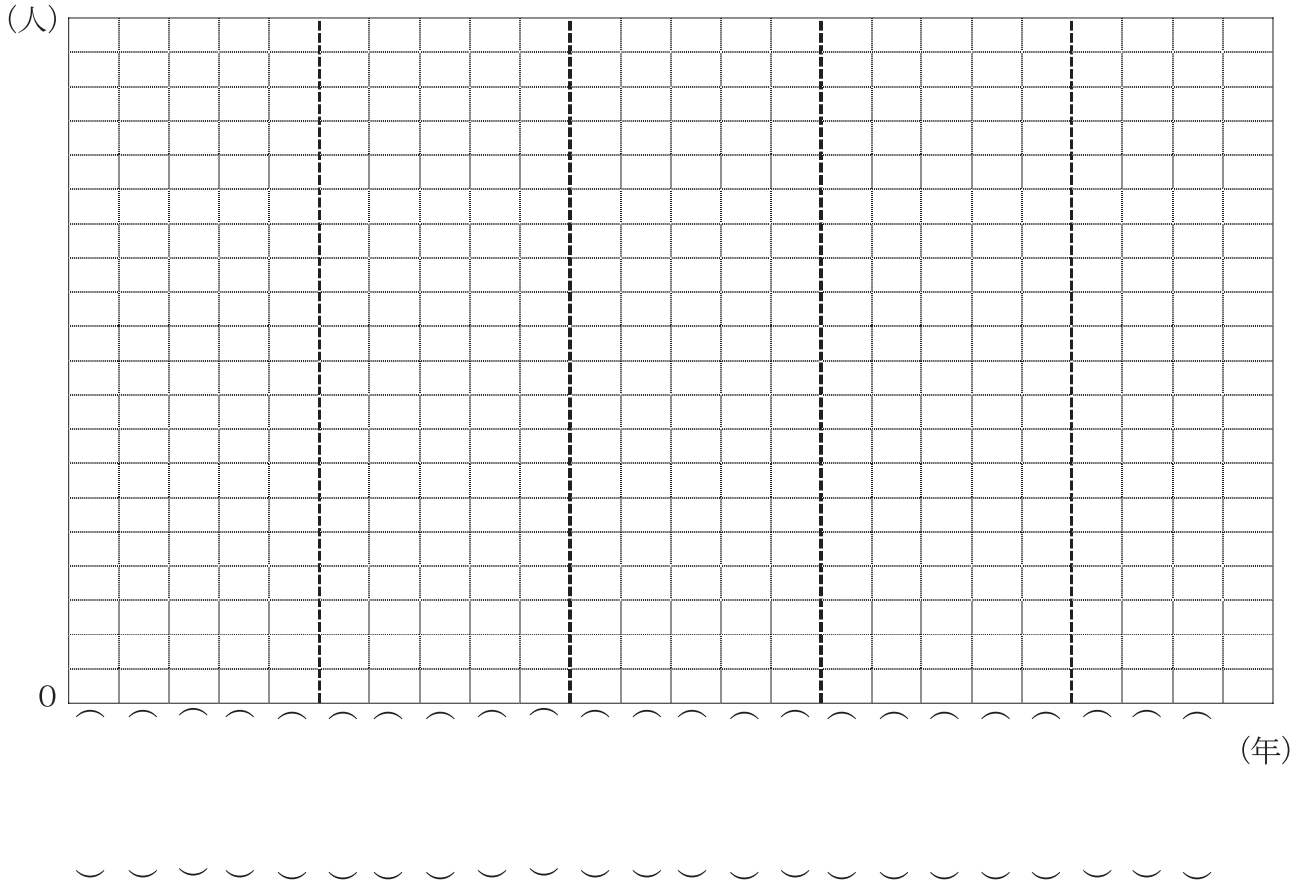
〔リーデンローズ〕

〔ローズアリーナ〕

福山市は，広島県で２番目に人口の多い町となり，１９９８年（平成１０年）には「中核市」に指定されました。これからも備後地域の中心として周辺の市町と協力し合って，いっそうよりよい町づくりをすすめていきます。

福山をこれからどんな町にしていきたいか，あなたの考えを書いてみましょう！

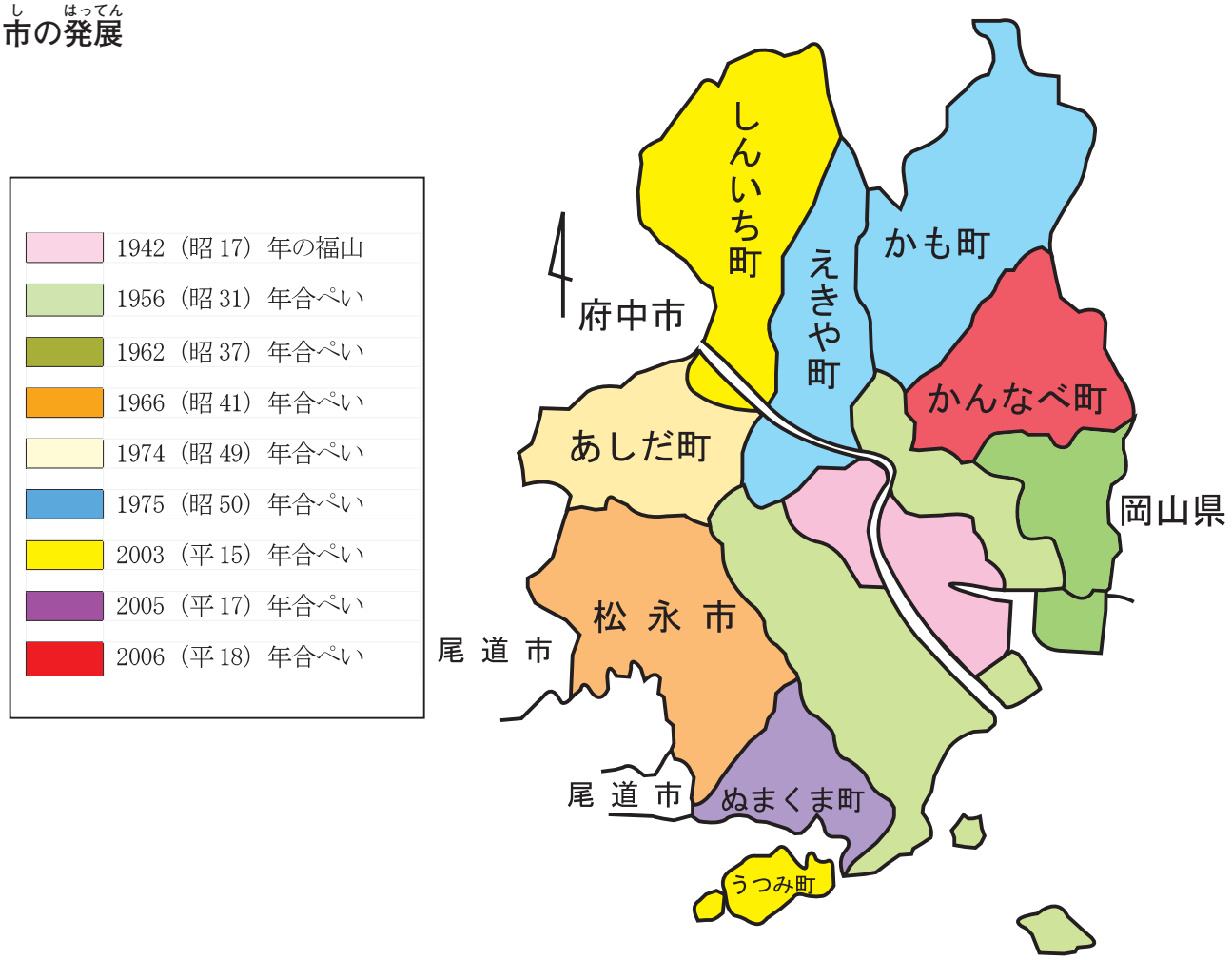
わたしの学校の児童数のうつりかわり

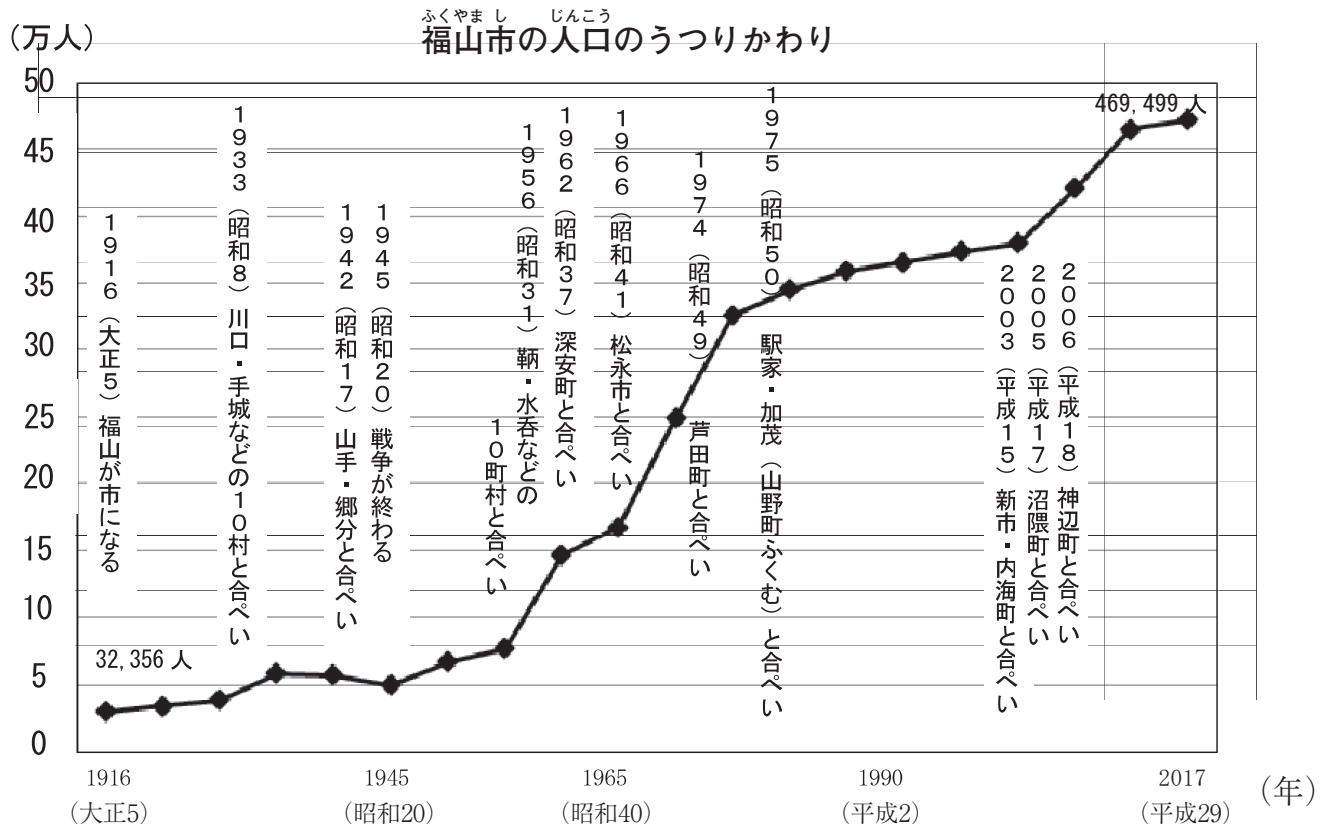


わたしの学校のうつりかわり

時代	100 年前　　50 年前
学校名	
学校・学区のうつりかわり	

市の発展


1942（昭17）年の福山
1956（昭31）年合ぺい
1962（昭37）年合ぺい
1966（昭41）年合ぺい
1974（昭49）年合ぺい
1975（昭50）年合ぺい
2003（平15）年合ぺい
2005（平17）年合ぺい
2006（平18）年合ぺい
府中市
しんいち町
えきや町
かも町
かんなべ町
あしだ町
岡山県
松 永 市
尾 道 市
尾 道 市
ぬまくま町
うつみ町


福山市の人口のうつりかわり
（万人）
50
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
1916（大正5）福山が市になる
1933（昭和8）川口・手城などの10村と合ぺい
1942（昭和17）山手・郷分と合ぺい
1945（昭和20）戦争が終わる
1956（昭和31）鞆・水呑などの10町村と合ぺい
1962（昭和37）深安町と合ぺい
1966（昭和41）松永市と合ぺい
1974（昭和49）芦田町と合ぺい
1975（昭和50）駅家・加茂（山野町ふくむ）と合ぺい
2003（平成15）新市・内海町と合ぺい
2005（平成17）沼隈町と合ぺい
2006（平成18）神辺町と合ぺい
32,356 人
469,499 人
1916（大正5）
1945（昭和20）
1965（昭和40）
1990（平成2）
2017（平成29）
（年）

知っとる？ふくやま チャレンジコーナー〔歴史・伝統文化編〕

（１）福山夏まつりで披露される二上りおどりの二上りとは，三味線の音階の「二上り」を基本にした遅い曲調をさします。では，二上りおどりを踊るときに手に持ち，打ち鳴らしているものは，次のうちのどれでしょうか。

〈第３回・３級〉

①陣太鼓　②なるこ　③四ッ竹　④カスタネット

（２）江戸時代の初期，福山藩により灌漑用のため池として造られた備後三大大池のうち当てはまらないのはどれか。〈第１回・３級〉

①富谷池　②春日池　③瀬戸池　④服部大池

（３）福山市の市章は福山城が建っていた山の名前に由来する動物をモチーフにしていますが，その動物は次のどれでしょうか。〈第６回・３級〉

①はと　②からす　③こうもり　④ふくろう

（４）福山市沼隈町で行われる「能登原とんど」は１年の無病息災や五穀豊穣を願い行われ，福山市無形民俗文化財に指定されています。とんどをぶつけあうことから，つぎのうち何と呼ばれているでしょう。〈第４回・３級〉

①当たりとんど　②暴れとんど　③けんかとんど　④荒れとんど

（５）明王院は空海（弘法大師）が８０７年に開基したと伝えられ，国宝の本堂は鎌倉時代末期に再建され，全体に和様，細部に唐様を用いた折衷様式です。
では，厨子内にある国重要文化財の秘仏は次のうちのどれでしょうか。

〈第５回・２級〉

①十一面千手観音像　②木造薬師如来立像
③十一面観音像　④木造阿弥陀三尊像

解答は１３０ｐ